

110502 黒金山～牛頸山

8.1km 3時間14分



- 駐車地
- ↓ 0:06
- キャンプ場
- ↓ 0:10
- 取付き
- ↓ 0:37
- 黒金山(405m)
- ↓ 0:24
- 牛頸林道へ
- ↓ 0:26
- 三市町山
- ↓ 0:16
- 黒金山分岐
- ↓ 0:11
- 牛頸山(448m)
- ↓ 0:14
- 林道
- ↓ 0:20
- 林道記念碑
- ↓ 0:05
- 近道
- ↓ 0:09
- 林道
- ↓ 0:03
- 近道
- ↓ 0:08
- 林道
- ↓ 0:05
- 駐車地

黒金山 (405m) ~牛頭山 (448m)

2011.05.02 (月) 晴れ



9:20 駐車地を後にキャンプ場へ向かう



9:21 キャンプ場入口



林道は通行止め



9:26 キャンプ場の中を抜けて取付きへ向かう



9:33 取付き点



山歩きの開始



10:06 山口越分岐 黒金山の説明



10:13 杉に掛けられたプレート



その下の説明



10:21 手入れされた杉に日がさす



10:26 橋を渡る



10:37 牛頭林道へ130mで休憩



10:46 一株だけミツバツツジが咲いていた



11:00 3方向分岐



11:09 三市町山



11:14 電線が撤去された送電鉄塔



11:25 黒金分岐 右は尾根を辿れば観音山へ到る



11:36 牛頸山到着 黄砂の影響で視程悪し



12:15 急な下り階段を降りる



12:21 林道へ出た。キャンプ場は右。



12:24 牛頸名所「苞石」



12:43 林道記念碑



12:48 近道入口



13:00 近道入口



13:10 ゲートが見えてきた

今回 出会った植物



ナルコユリ



タチツボスミレ



アカネスミレ



ツクシマムシグサ



ヤブツバキ



ハルリンドウ



ミズタビラコ



キバナアマナ



ネズミモチ





シャガ



セイヨウタンポポ



オニタビラコ



キラソウ



カキオドシ

牛頭山へようこそ！ひと休みしたら、ちよつとお別れ！

なぜ「牛頭」なの？

① 奥田藩の有名な儒学者・貝原益軒の『読前國統地志』によると「牛頭村は天利山（ここから見える天利山のこと）の西北にありて、山の間はある村あり、谷中長二十四、五町（約2.4~2.5キロ）あり、土村の間にひさき長き山あり、その形牛の首を飾るに似たり、故に名付く」とあります。その山は、平野神社の西にある古野山のことですが、現在は県の牛頭浄水場となっており、その面影はありません。

② 縄文時代、牛頭付近は海岸線になっていたことから、アイヌ語の「海の入りが」を表す「うし」から来たものとも言われています。

③ 6~8世紀、須恵器の産業技術をもたらした集団が朝鮮の牛頭山（ソソモリ山）から渡って来て、故郷の地名「牛頭」を村の名前にして住み着き、それが変化して「牛頭」になった、とも言われています。・・・どうもこれが正しそう！

※牛頭は須恵器の日本三大窯跡群（300~500基）の一つで、当時は千戸もある大変賑わった村でした。

牛頭は「昔、牛の頭をたくさん埋めた所だった」とか「牛を殺す所があったのだ」とかよく言われていますが、それは全くの偏見。大まちがいのコンコンチキなのです。そんなこと言ったら、キコ許さないよ、ギューっと言わせてやるから！

牛頭山の付近ご案内・・・タバコはダメ！ ゴミ散らかさないで下さいね。

牛頭山 磐石について

奥田藩の儒学者・貝原益軒が、江戸時代に編纂した『読前國統地志』に「牛頭山」として記述されています。左のようになっています。

●村の南一里半（約四キロ）に、磐石として其形客米道に似たる石あり。故に名付く、其色白し、石上平なる所、南北二間（約三、六キロ）餘あり、西や間半（約二、七キロ）餘あり。

●石の形客米道に似ては書いておりましたが、約二、五キロです。

●牛頭山は、他に三つの大石があり、上層が低く、下層が高くなっています。

●大石といふ所に、羽根持石として長さ八丈（約二、四キロ）高さ五丈半（約一、五キロ）の石有り、鳥の翼に似たり、今は片割となれり。

●上牛頭の南山の七分許、さがし尾と云う所に、鬼の接石といふ石、高さ一間半（約二、七キロ）許の大石、上と下に重なり、雪白に似たり、其地寒ざてたやすく登りかたし。●又山上に鬼の走り石と云あり、井手の西南八丁、大石浦にあり、長七間（約二、六キロ）幅三間（約一、四キロ）平面八畳敷許。（石の文の一部は明治十三年福地宗徳の調査より採り）

●岩の接石、鬼の走り石はどのにあるのか分かりません。

●さがし尾の時は、平野小学校の校歌にも出ていますが、明治十三年の福地宗徳の調査に次のように書かれています。さがし尾の時は、の林道の重櫃にある岩、高さ一丈許あり。

●村の東南にあり、山麓の弁子より絶頂へ六丁（約六〇〇メートル）餘あり、林木疎、松立つなり、山の北に那珂野若門より此村、花無尾を越て大岩山と稱し、松立つなり、山の北に那珂野若門より此村、花無尾を越て大岩山と稱し、松立つなり、山の北に那珂野若門より此村、花無尾を越て大岩山と稱し、松立つなり。

●危ないから降りないで
上から見てくださーい！